

配置計画について

1. 配置の前提条件

1.1 施設の配置

(1) あぶくまクリーンセンター

- ① 現在のあぶくまクリーンセンターを稼働させながら再整備をおこなうため、施設の竣工まであぶくまクリーンセンターの機能を維持する。
- ② ただし、計量棟や不燃ごみストックヤードなどの比較的移設が容易なものは、建設中の移設や仮使用も含め検討する。
- ③ 現在のあぶくまクリーンセンターの管理棟は建て替える。
- ④ 敷地南端の容器包装プラスチック再資源化施設は、稼働を継続する（原則として移設並びに建て替えは行わない）。

(2) ヘルシーランド福島駐車場

再整備予定地内にある 76 台分の駐車場は最低限確保する。

(3) 屋内ゲートボール場

現状と同様の仕様で確保する。

1.2 車両の条件等

(1) 廃棄物運搬車両

- ① 原則は、2t パッカー車又は 4t パッカー車（車両総重量 8t 未満）。
- ② ただし、災害ごみ搬入などに対応できるよう積載 10t ダンプ車に対応可能とする（旋回半径等を考慮）。

(2) 一般持込車両

原則自家用車もしくは 4t トラック程度までとする。

(3) その他

以下のとおり設定する。

- ① 焼却灰、飛灰運搬車両：10t ダンプ車
- ② 熔融スラグ運搬車両：10t ダンプ車
- ③ 燃料等（燃料、活性炭、消石灰等）運搬車両：10t ローリー車（最大）

1.3 建物の大きさ

事業者アンケートの結果、最大の幅が 58m、延長が 92m（なお、幅と延長の最大を回答した事業者は異なる）であるが、58m の場合、周回路を十分に確保した状況でかつ崖条例に基づく離隔距離の確保が困難であるため、幅 55m で設定する。

2. 施設利用者アンケートに基づく要望について

2.1 経路の単純化

原則として、一方通行とする。

2.2 2度計量について

- ① 場内の通行のみで2度計量ができるよう、専用の出口計量機を設置する。
- ② 市民の持込ごみなど複数混載の少量のごみに対応するため、台はかりの整備を検討する。

2.3 渋滞対策

- ① 搬入経路を2車線化し、委託・許可業者の搬入動線と一般持込の搬入動線を分離する。
- ② 委託・許可業者の計量機と一般持込の計量機を分離する。
- ③ 搬入者の混雑で市道を妨げないよう、搬入路のアプローチを長く設定する。

2.4 安全対策

- ① 市民はプラットホームにごみを持ち込まないよう、専用のストックヤードで荷降ろしする。可燃ごみのストックヤードでの荷降ろしは、臭気等の課題があるためやむを得ない場合は、プラットホーム内に市民持込用のスペースを確保する。
- ② 搬入路の幅員は、一方通行で4m以上（車道部のみ）を確保する（対面は8m以上）。また、対面通行の場所は、ポールなどを設置し車両が割り込めないように対策する。
- ③ スロープは、設置しない計画とするが、地質条件などからやむを得ずスロープを設置せざるを得ない場合は、勾配8%未満かつ中間部に平坦な箇所を設ける。

2.5 その他

- ④ 小動物の引受場所を焼却炉とは離して設置する。
- ⑤ プラットホームは、幅18m以上とし、可能な範囲で車両間を離すよう計画する。
- ⑥ 収集運搬の従事者に配慮し、DPFの再生用の駐車スペース及びトイレを整備する。
- ⑦ 洗車場については、原則として委託・許可事業者が行うべき行為であるが、ごみ汁等の周辺への撒き散らし防止のため、整備の可能性を今後検討する。

3. その他

- ① あぶくまクリーンセンターの解体に際しては、交付金の適用を念頭に計画する。
- ② 市民の可燃ごみ・不燃物の持込場所は、専用のストックヤードを整備し、委託・許可業者の車両通行を妨げない位置に整備する。

4. 配置（例）

次頁に配置の例を示す。

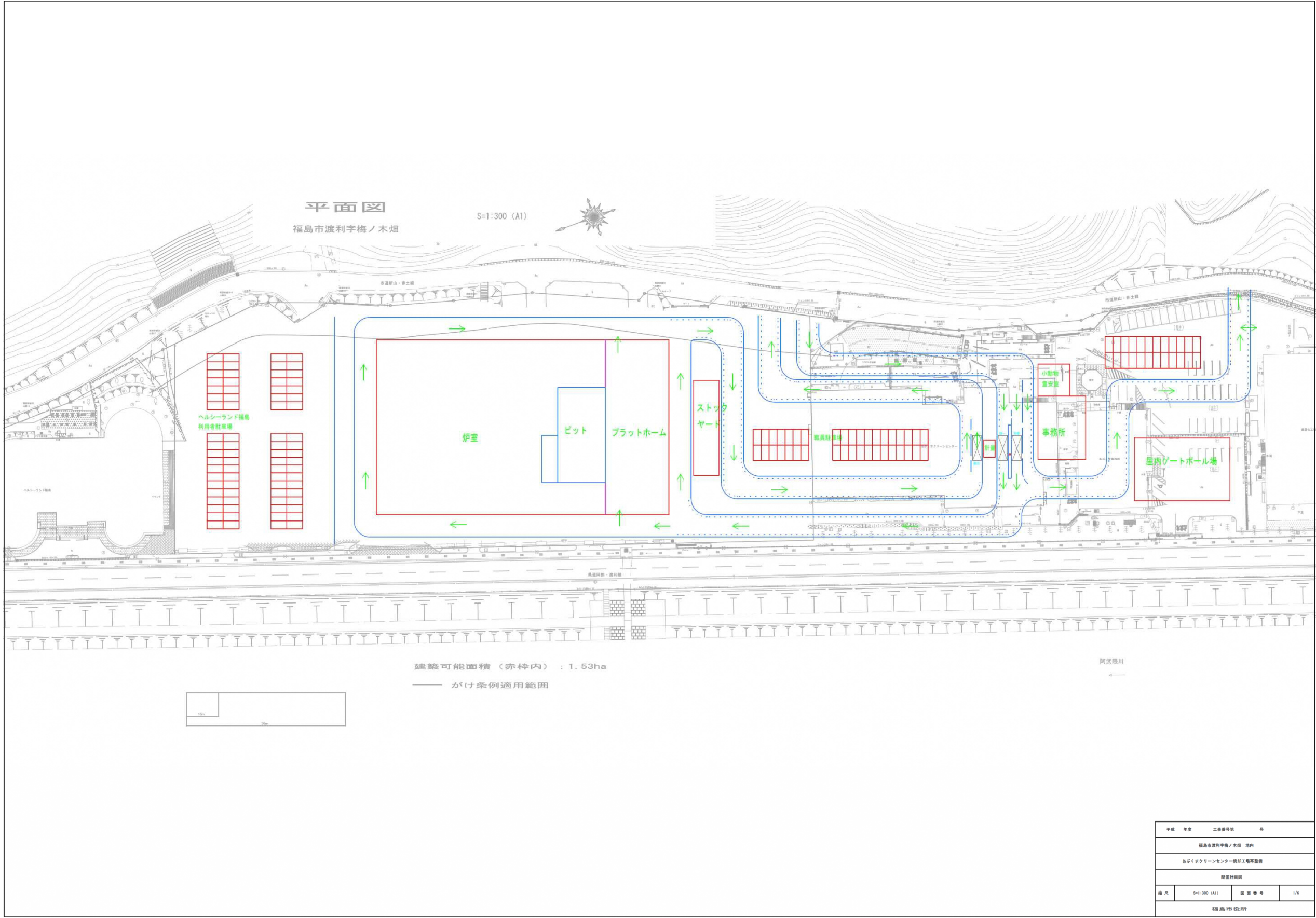


図 1 参考配置（例示）